

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	福岡工業大学
設置者名	学校法人 福岡工業大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
工学部	電子情報工学科	夜・通信	4	-	14	18	13	
	生命環境化学科	夜・通信			20	24	13	
	知能機械工学科	夜・通信			14	18	13	
	電気工学科	夜・通信			14	18	13	
情報工学部	情報工学科	夜・通信		-	20	24	13	
	情報通信工学科	夜・通信			18	22	13	
	情報システム工学科	夜・通信			18	22	13	
	システムマネジメント学科	夜・通信			18	22	13	
社会環境学部	社会環境学科	夜・通信	-	12	16	13		
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

『高等教育段階の教育費負担軽減新制度に係る実務経験のある教員による授業科目一覧』 http://www.fit.ac.jp/gakusei/zaigakusei/index

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	福岡工業大学
設置者名	学校法人 福岡工業大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページで公表 <https://www.fit.ac.jp/daigaku/syokai/yakuin>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	国立大学 学長	2019/10/1- 2022/9/30	大学・短大学長
常勤	株式会社 代表取締役	2018/11/29- 2021/11/28	理事長
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	福岡工業大学
設置者名	学校法人 福岡工業大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

授業計画(シラバス)は、毎年2月に科目担当教員が『シラバス作成の手引き』及び『成績評価ガイドライン』に従い、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーはもとより、授業形態の表記、教職課程、実務経験、各授業のテーマ、授業外学習内容、ICTの活用、オフィスアワー等を考慮しながら、シラバス管理システムにて作成する。その後、各学科教員および教務課職員による第三者チェックにより、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとの整合性や達成目標と成績評価方法等の適合性について確認する。この後、科目担当教員、教務課職員による修正の後、最終シラバスチェックを行い、4月1日にシラバスを公開する。なお、各シラバスには当該科目における前年度の授業アンケート結果がリンクされており、受講者の評価やコメントを参照することができる。

この他、シラバスの記載内容は、学生が理解できるように最大限配慮し、授業科目の目標や授業内容、参考図書、履修上のアドバイス、成績評価方法、成績評価基準等の記載内容等について、学生便覧に『シラバスの見方』を例示して説明している。また、各学科において習得する知識・能力(ディプロマ・ポリシー)と科目の関与度についても一覧表で示している。

●シラバスに記載する科目のディプロマ・ポリシーと達成目標(例)

	修得する知識・能力(DP)	関与度	達成目標
A	地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養		
B	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び社会に対して負っている責任に対する理解		
C	数学及び自然科学(人文社会科学)に関する知識とそれらを応用する能力		
D	当該分野において必要とされる専門知識とそれらを応用する能力	◎	電子回路を理解するために必要なバイアスと等価回路の考え方と具体的な回路について説明できる。
E	種々の科学技術、情報及び知識を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力		
F	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力		
G	自主的、継続的に学習する能力		
H	与えられた制約の中で計画的に仕事を進め、まとめる能力	○	必要な回路の目的を理解し、適切に素子及び回路を選択し設計を行うことができる。
I	チームで仕事をするための能力		

授業計画書の公表方法	『シラバス（授業計画）検索』 http://www.fit.ac.jp/gakusei/zaigakusei/index 『福岡工業大学 学生便覧』 （修学—授業—シラバス（授業計画）に記載） http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rishu/binran_daigaku
------------	--

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

科目のディプロマ・ポリシーに対する達成目標を評価するため、以下のマトリックスを標準フォーマットとして、評価方法および評価割合をシラバスに記載している。科目担当教員は、授業に3分の2以上出席した学生に対し、学期末試験やレポート課題等を点数化し、成績評価基準表に従って厳格かつ適正に学修成果を評価し、単位を付与している。

●成績評価方法と割合（例）

DP カテゴリ	理解度（達成度） 確認テスト・学期末試験	小テスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	その他
A・C・D 【専門力・教養力】	○				
B 【倫理観・責任感】			○		
E・F 【発想力・表現力】					
G・H・I 【主体性】				○	
評価割合	70		10	20	

●成績評価の基準表

評価	秀	優	良	可	不可
評点	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0
評価基準	達成目標を理想的なレベルで達成し、きわめて優秀な成果をおさめている	達成目標を理想的なレベルで達成している	達成目標を標準的なレベルで達成している	達成目標を最低限達成している	達成目標を達成できていない

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

GPA、平均点、単位取得等の成績評価に基づき、各学科・各学年の成績順位表や成績分布表等を作成して状況の把握に努めており、学生は成績順位確認申請を行うことにより、学科内での順位を随時確認することができる。

GPA は、教務システムにて以下の式により自動計算され、教務課が作成する成績順位や成績分布の基礎資料として活用し、学科教員と都度情報の共有を行っている。なお、学生はWEB 成績照会や学業成績確認表で GPA を確認できる。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{科目の単位数}) \times (\text{科目で得た GP}) \text{ の総和}}{\text{履修総単位数}}$$

評価	秀	優	良	可	認定	不可
評点	100～90	89～80	79～70	69～60	—	59～0
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	—	0

なお、次の科目は GPA の算定対象の除外科目となる。

- ・卒業単位に含まない科目（教職課程に関する科目、所属学科のカリキュラムでない科目など）
- ・認定科目
- ・外国人留学生科目

客観的な指標の算出方法の公表方法	『 GPA の算定について 』 http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rishu/seiseki
------------------	--

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

学生が修得する資質・能力について、A～I を定義しており、この方針に基づき各学科におけるディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を設定し卒業認定および学位授与を行っている。工学部学生は 132 単位、情報工学部、並びに社会環境学部学生は 124 単位を取得すれば、ディプロマ・ポリシーに適う卒業に必要な資質・能力を修得したと教授会にて判定され、学長が学位を授与する。

- A. 地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養
- B. 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び社会に対して負っている責任に対する理解
- C. 数学及び自然科学（人文社会科学）に関する知識とそれらを応用する能力
- D. 当該分野において必要とされる専門知識とそれらを応用する能力
- E. 種々の科学技術、情報及び知識を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
- F. 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
- G. 自主的、継続的に学習する能力
- H. 与えられた制約の中で計画的に仕事を進め、まとめる能力
- I. チームで仕事をするための能力

卒業の認定に関する方針の公表方法	『福岡工業大学 ディプロマ・ポリシー』 http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/diploma_policy/index 『進級・卒業』 http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rishu/shinkyu
------------------	--

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	福岡工業大学
設置者名	学校法人 福岡工業大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	『事業報告書の財務の概要に記載』 http://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/reports/index
収支計算書又は損益計算書	『事業報告書の財務の概要に記載』 http://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/reports/index
財産目録	『事業報告書の財産目録・監事監査報告書に記載』 http://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/reports/index
事業報告書	http://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/reports/index
監事による監査報告(書)	『事業報告書の財産目録・監事監査報告書に記載』 http://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/reports/index

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:2021(令和3)年度事業計画書 対象年度:2021年度)
公表方法: http://www.fit.ac.jp/sp/daigaku/disclosure/business_plan
中長期計画(名称:第8次中期経営計画(マスタープラン) 対象年度:2019~2023年度)
公表方法: http://www.fit.ac.jp/daigaku/syokai/master_plan

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:『福岡工業大学 点検・評価報告書2019』 https://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/hyoka_2019/hyoka

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:大学基準協会『福岡工業大学に対する大学評価(認証評価)結果』 https://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/hyoka/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部電子情報工学科
教育研究上の目的 (公表方法: http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/index)
(概要) 現代社会において、科学技術者は、科学技術への貢献はもとより、社会人として自立し、広い視野に立ち柔軟な発想を行えることが求められている。本学科は、電子技術と情報技術が融合した技術分野において、このような要請に応えることができる実践型の人材の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/diploma_policy/index)
(概要) A 地球の視点から多面的に物事を考える能力とその素養を身につけている。 1. 地球及び人類の歴史に対する認識のもとに、技術の発展の歴史を理解している。 2. 世界の経済システム及び地球環境問題、エネルギー問題、安全問題等を理解しており、技術の将来を展望する能力を身につけている。 B 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果および技術者の社会責任を理解している。 1. 過去における技術の成果と、その社会や自然に及ぼす影響を認識しており、技術者としての責任と役割を理解している。 C 数学、自然科学および情報技術に関する知識と応用力を身につけている。 1. 専門技術の理解に必要な数学を修得しており、適用する能力を身につけている。 2. 自然科学、特に物理学の基礎を修得しており、物事を本質から理解する姿勢を身につけている。 3. 専門技術を活用するにあたって不可欠な情報技術を身につけている。 D 電子情報技術者として必要な電子情報工学の専門技術に関する以下の知識と応用力を身につけている。 1. 電気回路・電子回路に関する知識と応用力を身につけている。 2. 計測制御・情報処理に関する知識と応用力を身につけている。 3. 半導体デバイスに関する知識と応用力を身につけている。 E 多方面の知識を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力と課題解決能力を身につけている。 1. 解決を要求される課題に対して、必要な技術、要件を把握し、解決にいたるまでのプロセスを提案できる能力を身につけている。 2. 課題解決に必要な種々の学問、技術を学習し、創造的な応用能力を発揮して実践することができる能力を身につけている。 F 日本語による論理的な記述力、コミュニケーション能力および国際的コミュニケーションの基礎能力を身につけている。 1. 論理的かつ明晰な文章を記述する能力を身につけている。 2. 効果的な口頭発表および討論をする能力を身につけている。 3. 外国人と意思疎通のできる語学力を身につけている。 G 自主的、継続的に学習できる能力を身につけている。 1. 大学で学習する知識は専門技術の基礎的部分であることを認識しており、必要な知識を自主的に学習する姿勢を身につけている。 2. 技術の発展が急速であることを認識しており、生涯にわたって継続的に学習する姿勢を身につけている。 H 計画的に仕事を進め、まとめる能力を身につけている。 1. 現実の制約条件のもとで実行可能な計画を立て、期限までに結果を出す能力を身につける。

<p>ている。</p> <p>I チームで仕事をするための能力を身につけている。</p> <p>1. 計画遂行にあたって、他者と協調して仕事を進める能力を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/curriculum_policy/index）</p>
<p>（概要）</p> <p>複合的な技術から構成されるスマートフォン等の現代エレクトロニクスでは、IC等の半導体を応用する電子技術と、それらをコンピュータで処理・制御する情報技術が重要な役割をなしている。このことから、本学科では、デバイス・回路からコンピュータ・ソフトウェアまで、理論と実践を融合した教育を展開し、電子情報技術（ハードとソフト）を総合的に修得できるカリキュラムを編成する。そのため、数学的素養を習熟度別クラス分けによる授業によって確実に身につけた上で、回路・情報・物性材料分野の基礎及び応用知識を、アクティブ・ラーニングを積極的に導入することで体系的に学ぶ。さらに、全学年次で開講する実験・演習等のグループワークを通じた活動により、応用力・創造力を養う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/index）</p>
<p>（概要）</p> <p>電子情報技術を身につけることで、社会の期待に応える意欲と姿勢を持つ人物を求めます。修学に必要な学力として、理数系科目の基礎知識を身につけていることが必要とされ、グローバル社会における意思伝達手段としての一定の英語力も求められます。特に数学は、数学II / 数学A / 数学B（普通科生徒には数学IIIも）を履修していることが望まれ、理科は物理の履修が望まれます。進学後に学ぶ電子情報工学に関心を持ち、継続的に学習する意思を持つことが重要です。一方、他人とのコミュニケーションや社会生活におけるマナーなどの基本的素養を身につけていることが望まれ、在学中もその素養を高める努力を怠らない高いモチベーションが求められます。</p>

<p>学部等名 工学部生命環境化学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/index）</p>
<p>（概要）</p> <p>地球の様々な環境問題が深刻化する今日、環境の管理、保全、改善と修復の基本理念を理解し、物理・化学的、及び生物的アプローチ等の多様な先端技術を用いて、問題を解決する能力を持つ自立した物質系・生物系技術者の人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/diploma_policy/index）</p>
<p>（概要）</p> <p>A 地球の視点から、環境の管理・保全、修復と創造の基本理念について理解している。</p> <p>B 資源・環境・安全など、技術の社会および自然に及ぼす影響について理解し、技術者として社会に対する責任を自覚するとともに、自らの行動に反映する能力を身につけている。</p> <p>C 数学、物理学、化学、生物学など自然科学に関する基礎知識とコンピューター利用技術（情報処理、数値計算を含む）に関する知識を習得し、さらにそれらを問題解決に対応出来る能力を身につけている。</p> <p>D 有機化学、無機化学、物理化学、分析化学、生物化学、高分子化学、環境化学、食品化学、あるいは、それらの複合領域科目などの専門基礎知識および実験技術の習得と、それらを問題解決に応用できる能力を身につけている。</p> <p>E 実験・研究などを通して、問題点を発見し、種々の知識、情報を応用して、問題解決に導く構想能力を身につけている。</p> <p>F 日本語で理論的記述や口頭発表ができ、他の人と意見交換が出来る能力と英語でのコミュニケーション基礎能力を身につけている。</p> <p>G 技術者として、与えられた問題を理性的かつ理論的に分析し、図書や文献のみならず</p>

<p>種々の情報媒体から情報を集め、自主的、継続的に自己開発を行う能力を身につけている。</p> <p>H 与えられた制約の下でも、十分な情報の収集を行いた確な計画を立案・実行し、まとめる能力を身につけている。</p> <p>I 自己の行動を的確に判断し、他者と協力しながらチームで仕事を遂行する能力を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/curriculum_policy/index）</p>
<p>（概要）</p> <p>地球上の様々な環境問題が深刻化する今日において、本学科では、環境・エネルギー、物質化学、バイオ、食品の4つの分野に関して適切な化学的あるいは生物学的なアプローチを用いて問題解決する能力をもつ、自立した技術者を育成するための教育を展開する。そのため、専門科目を理解するための基礎科目を確実に身につけた上で、講義、演習、実験を通して環境技術の幅広い基礎知識と理論を体系的に学び、実験や卒業研究を通して分析力・課題解決力を養う。</p> <p>また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の養成課程を設け、資格取得を支援する。学修方法については、「科学実験入門」、「化学実験」、「生物学実験」、「機器分析化学実験」、「環境物質工学実験」、「環境生命工学実験」等の科目はアクティブ・ラーニングを実践し、学生の主体的に学ぶ力を向上させる。</p> <p>また、3年次に生命環境化学分野の最先端研究テーマを紹介、討論する少人数グループのゼミナールを導入し、4年次の卒論研究と繋げ、学修してきた基礎・専門知識を総合的に応用する力、さらに問題・課題の分析・解決力を向上させる。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/index）</p>
<p>（概要）</p> <p>数学・理科・英語の素養を持った学生、特に化学や生物学の視点から環境・エネルギー、物質化学、バイオ、食品のいずれかの学修分野に興味をもった学生の入学を希望します。また、直面する様々な課題を他者とともに主体的に解決していくための思考力、判断力、表現力やコミュニケーション能力を備えた学生の入学を希望します。さらに、入学後も主体的に自ら学習する意欲をもち実践していく学生を望みます。高等学校で数学や理科の履修が十分でない場合、または得意としていない場合は、入学前・入学後に、不足分を補完していこうとする強い意志のある学生でなければなりません。</p>

<p>学部等名 工学部知能機械工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/index）</p>
<p>（概要）</p> <p>情報技術と生産技術を融合した知能機械が主流となった機械分野において、基礎及び専門技術に関する知識と応用力を身につけるとともに、それらを駆使したデザイン能力とコミュニケーション能力を有し、技術者倫理をもってグローバルな活躍ができる人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/diploma_policy/index）</p>
<p>（概要）</p> <p>A 地球的視点から多面的に物事を考える能力</p> <p>1. 産業社会における技術者・産業人の倫理に関する概念を修得し、安全な世界を築くため多面的に物事を考える能力を修得している。</p> <p>B 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解</p>

1. 新技術の開発や応用に関わる技術者は、社会に対して責任を負っていることを認識する能力を修得している。
- C 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力
1. 専門科目を受講するために必要な数学や物理学の基礎知識を、専門基礎科目で修得している。
 2. 専門基礎科目や専門科目で修得した能力を、知能機械の設計・創成に関連する科目、ならびに卒業研究で具現化する応用力を修得している。
- D 知能機械工学に関する分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
1. 機械製図、機械4力学、機械材料、機械工作法、電気基礎学、計測・制御工学に関連する専門科目を履修し、知能機械の設計・創成に応用する能力を修得している。
- E 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
1. 機械要素、機械工作法、計測・制御工学、CAD・CAM・CAE、知能機械創成に関連する専門科目を履修し、知能機械を設計・製造する基礎能力を修得している。
- F 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
1. コンピュータ、コミュニケーション・プレゼンテーションに関連する科目、実験・実習に関連する報告書、ならびに卒業研究課題においては、論理的な記述能力や口頭発表能力や質問応答能力を修得している。
 2. コミュニケーション・プレゼンテーションに関連する科目、ならびに卒業研究の発表会で口頭発表技術や論文作成技術を修得し、高度なコミュニケーション能力を修得している。
- G 自主的、継続的に学習する能力
1. 講義内容について自ら進んで質問し、問題を解決する能力を修得している。
 2. 卒業研究課題に関する知識や研究背景を調査し、指導教員との討議等により自主的、継続的に学習する能力を修得している。
- H 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
1. 与えられた時間や制約条件の下で知能機械創成課題や卒業研究課題を行い、目的意識や計画的に仕事を進める能力を修得している。
 2. 知能機械創成課題や卒業研究課題に関する成果の記録を通して、調査・研究の結果を図式化及び文書化する能力を修得している。
- I チームで仕事をするための能力
1. 知能機械設計、CAD・CAM・CAE、知能機械基礎実験、知能機械創成実験に関連する課題、ならびに卒業研究課題を通して、チームで仕事ができる能力を修得している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：
http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/curriculum_policy/index）

（概要）

本学科では、社会に役立つグローバルな知能機械技術者の育成のため、物理や数学の基礎科目を確実に身につけた上で、機械工学関連の基礎力学と加工技術、センサーと制御の技術、コンピュータ関連技術などを1年次から順次習得する。

また、創造性豊かな技術者育成のためのエンジニアリングデザイン教育、国際的に活躍できる技術者育成のための英語教育、技術者の社会的責任を理解するための教育を実施する。導入教育として設けた科目“ものづくり基礎実習”では、アクティブ・ラーニング形式でものづくりを体験させ、本学科ではどのようなことを学び、どのような知識や能力を身につけるかを自覚させ、目的意識を持って学業に取り組む土台を形成する。基盤となるコア科目に指定された物理・数学科目は、少人数クラスで実施し、機械4力学を学修する上で必要な素養を修得する。

さらに、実験科目ならびに設計科目は機械4力学と密接に連携し、物理現象あるいは法則・定理を正しく理解するとともに、応用する能力を修得する。

また、就業力育成のためにキャリアポートフォリオを導入し、卒業あるいは進学時までのキャリア形成の過程を把握する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
<http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/index>）

<p>(概要)</p> <p>入学後の学習のための基盤になるのは高校までの授業科目です。これを十分に修得しておく必要があります。特に数学・物理・英語は必要不可欠です。具体的に、数学では、三角関数、指数・対数、微分積分、整式、ベクトル、複素数、高次方程式、2次曲線などであり、物理では物体の運動(力学)、電気と磁気(電磁気学)などです。また英語では、高校までに習う文法、単語を理解し、英語を実際に用いて、簡単なコミュニケーションをとれるレベルを必要とします。それが不十分と考えられる場合には、大学入学前はもちろん、入学後においてもこれを十分に補完することが求められます。授業においても、より主体的に自ら学ぶ姿勢が求められます。また他人に迷惑を掛けないで学生同士正しく協調しあって授業科目をより深く理解し、修得する努力を怠らないことが求められます。</p>
--

<p>学部等名 工学部電気工学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/index)</p>
<p>(概要)</p> <p>日々進歩する電気・電子・情報工学の技術を理解し、習得するための素養と専門知識及び技術を身につけ、国際感覚と倫理観を有するとともに、地域産業のニーズも理解し、地域的また国際的連携の両方を意識して活躍できるグローバルな技術人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法 : http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/diploma_policy/index)</p>
<p>(概要)</p> <p>A 国際的視点と倫理観を有するとともに、多面的に物事を考える能力を身につけている。</p> <p>B 技術と行動が社会や自然に及ぼす影響と技術者が社会に対して負っている責任を理解している。</p> <p>C 電気工学分野における新しい知識の修得や課題の解決に必要な自然科学、情報技術に関する知識と応用力を身につけている。</p> <p>D 電気工学分野における基盤技術、ハードウェア、ソフトウェアを理解するとともに、それらを総合的に応用して問題を解決できる実践的知識と技術を身につけている。</p> <p>E 種々の科学、技術及び情報を用いて目的を達成するためのデザイン能力を身につけている。</p> <p>F 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>G 自発的興味や社会的要求に基づいて継続的に情報収集や学習する能力を身につけている。</p> <p>H 与えられた制約の下で計画的に実行し、まとめる能力を身につけている。</p> <p>I 異なる背景や価値観を持つ他者と協力して課題を解決する能力を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/curriculum_policy/index)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学科では、数学・電気回路・電磁気学などの基礎教育と、電気機器・電子回路・物性デバイス・システム制御・電気エネルギーの4領域に及ぶ充実した専門教育を実施する。</p> <p>また、種々の科目と有機的に連携した実験・実習科目により、知識を応用する力を伸ばす。さらに、資格取得も積極的に支援し、就業力育成科目と連携して、志向する力・協働する力・解決する力・実践する力を身につけた、広い分野で活躍できる人材を育成する。これらの力を効率的に身につけるために、アクティブ・ラーニング、反転講義を取り入れている科目もある。</p> <p>また、1~3年次で学修した電気工学分野の知識・技術を総合的に応用して、問題を解決できる実践的能力を身に付けているか確かめるために、総合科目・演習を設けている。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/index)</p>

<p>(概要)</p> <p>電気工学科では、「養成すべき人物像」にふさわしい以下に掲げる能力・資質をもつ学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気に関連ある技術者になることを目指して、努力を惜しまず勉学に励み、得られた知識・技術を使って社会に役立つことをしたいという希望を持っている人。 ・目標ははっきりしていなくても、将来広く社会の役に立つ仕事に就きたいと強く思っている人。 ・旺盛な探究心を持って行動し、得られた知識や技術を知識レベルや背景の異なる第三者に分かりやすく伝えることのできる人。 ・広い視野に立って物事を考え、他者の立場や多様性を理解して他者とコミュニケーションをとる努力を惜しまず、さまざまな場面で適切に行動することのできる人。
--

<p>学部等名 情報工学部情報工学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/index)</p>
<p>(概要)</p> <p>コンピュータのソフトウェア・ハードウェアの基礎及び応用を教授研究し、プログラミングに習熟させるとともに、インターネットや人工知能、知能ロボット、自然言語処理、画像処理、データベース、マルチメディア、CG、システム LSI などの最先端のコンピュータ技術・応用技術を持つ専門的職業人及び教育研究者の人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/diploma_policy/index)</p>
<p>(概要)</p> <p>A 地球の観点から多面的に物事を考える能力とその素養</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバルな視点で、社会経済や情報技術を理解し、将来への展望を持つ能力を身につけている。 <p>B 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に対する理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術者倫理の知識を有し、社会的責任を理解しながら、適切に行動する能力を身につけている。 <p>C 数学及び自然科学に関する知識とそれらを活用する能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 数学、物理学の基礎知識を身につけている。 2. これらの知識を利用して様々な問題をモデル化し、解を求める能力を身につけている。 <p>D 情報工学分野において必要とされる専門知識とそれらを活用する能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソフトウェアとハードウェアの基礎知識を身につけ、各種問題に対応する応用力を身につけている。 <p>E 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問題解決に有用な方法を調べ出し、手順を計画し実行する能力を身につけている。 <p>F 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の考えを論理的に述べたり記述したりする能力を身につけている。 2. 自分の考えを適切に伝えるプレゼンテーション能力を備え、また円滑なコミュニケーションを土台とした討議をする能力を身につけている。 <p>G 自主的、継続的に学習する能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯にわたって、自発的かつ継続的に学習する能力を身につけている。 <p>H 与えられた制約の中で計画的に仕事を進め、まとめる能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 習得した知識を用い、想定される経済的および環境の制約の下で、問題を解決する方法を計画し実行する能力を身につけている。 <p>I チームで仕事をするための能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームで仕事をする際、他者と協働しながら自己の行動を的確に判断し実行する能力を身につけている。

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/curriculum_policy/index）</p>
<p>（概要）</p> <p>本学科では、技術革新が急速に進む高度情報化社会をハードウェアとソフトウェアの両面から支える専門的職業人及び教育研究者の人材の育成を目的としている。そのため、専門科目の理解に必要な数学や物理学の素養、電気・電子回路やコンピュータアーキテクチャなどのハードウェアの基礎知識を修得した上で、プログラミングやアルゴリズムといったソフトウェアの基礎から、人工知能やヴァーチャルリアリティなどの応用技術まで、講義や実験・演習を通じて、幅広い知識や技能を身につける。</p> <p>また、社会の一員として活躍していく上で求められる技術者としての倫理観や汎用的スキルをアクティブ・ラーニング型の授業も行いながら身につけさせる。さらに、卒業研究やプロジェクト型学習を通じて、統合的な学習経験と創造的思考力を向上させる。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/index）</p>
<p>（概要）</p> <p>入学者は、本学での学びを通じて「養成すべき人物像」に成長することが期待されています。社会や組織の中心的な役割を担える人物という点では、リーダーシップを発揮し物事に取り組んだ実績が求められます。さらに、高校までの数学の基礎知識を、本学の入学前教育なども含めて、身につけておくことが求められます。また、高度な技術力を有する専門的職業人や教育研究者という点では、理系科目の十分な学力と語学力が求められます。いずれの場合でも、周囲と協力しながら、主体的かつ積極的に物事に取り組める人物であることが求められます。</p>

<p>学部等名 情報工学部情報通信工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/index）</p>
<p>（概要）</p> <p>今日の情報通信関連技術は、あらゆる産業分野における基幹技術としての影響力を持つようになり、社会生活の中に深く関係している。このように情報通信工学の裾野が限りなく広がり、技術的な可能性が満ち溢れる世界で、独創性を発揮し、多様化する先端技術を開拓できる技術者及び情報通信関連分野の研究能力を有する人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/diploma_policy/index）</p>
<p>（概要）</p> <p>A 技術者として地球的視点から多面的に考える能力を身につけている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問題を見出し、その解決のために複数の選択肢を考慮することができる。 2. 問題解決にあたり、技術者としての判断だけでなく、地球的視点からも多面的に考える能力を示すことができる。 <p>B 社会の仕組みや成り立ちを理解し、技術者として社会に対する倫理・モラルを身につけている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術者倫理の知識を有し、技術が社会に与える影響や効果、および技術者の責任について考える能力を示すことができる。 2. 社会、文化およびその歴史的発展についての知識を示すことができる。 <p>C 自然科学に対する理解を深め、問題解決のために必要な数学、物理学等の基礎的素養を身につけている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 数学、物理学の基礎知識を示すことができる。 2. これらの知識を適用して現実的問題をモデル化し解を求めることができる。 <p>D 情報・通信工学を支える基盤技術を理解・開発するための専門知識を修得し、その多面的な応用能力を身につけている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報工学、通信工学、およびコンピュータやネットワークの基礎知識を示すことができる。

<p>2. 学習した知識を実際の技術と関係づけて理解している。</p> <p>E 課題解決のための工学的デザイン能力を示すことができる。</p> <p>1. 問題解決に有用な方法を調査し、手順を計画し、実行できる。</p> <p>2. 得られた結果を解析し、評価することができる。さらに改善策を提示することができる。</p> <p>F 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議など、国際的にも通用するコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>1. 日本語や英語の文章を読んで内容を正しく理解することができる。</p> <p>2. 自分の考えを適切に文書や口頭で説明でき、そのために有用なプレゼンテーション能力を身につけている。</p> <p>G 修得した情報・通信工学の専門知識を基に、自主的継続的に学習する能力を身につけている。</p> <p>1. 問題解決に有用な方法を調べ、それを基に考えることができる。</p> <p>H 現実の条件の下で、計画的に問題を解決する能力を身につけている。</p> <p>1. 習得した知識を用い、想定される経済および環境の制約の下で、問題を解決する方法を計画し実行することができる。</p> <p>I チームで仕事をするための能力を身につけている。</p> <p>1. チームで仕事をする際、他者と協働しながら自己の行動を的確に判断し実行することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/curriculum_policy/index）</p>
<p>（概要）</p> <p>情報処理技術と情報伝送技術の進歩によって、多種多様な情報が伝達・蓄積・活用される情報基盤社会を迎えており、その基盤を支える情報通信技術の役割は大きい。本学科では、コンピュータネットワーク技術、プログラミング技術、情報伝送技術および信号処理技術の基礎を体系的に修得する。</p> <p>また、情報処理技術者、ネットワーク技術者、無線従事者、電気通信主任技術者などの資格取得のための実力養成を図る。学修方法について、多くの科目は講義形式で進められる。また実験科目ではグループで分担・協力しながら実験を進める。特に、アクティブ・ラーニング型の科目では、グループでの討論・発表・ふり返り等を通じて、知識の活用と定着を図る。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/index）</p>
<p>（概要）</p> <p>情報通信工学科は高度情報化社会の基盤であるインターネットに必要な情報通信・情報ネットワークに強い興味を持ち、情報通信工学分野の知識・技術を修得し、有線・無線通信技術者や情報・ネットワーク分野の資格取得を目指す学生を求めます。このため、理数系科目の基礎学力を身につけ、本学科の教育方針（カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）を理解し、多様な人々と協働して主体的かつ継続的に学修できる学生を歓迎します。</p>
<p>学部等名 情報工学部情報システム工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/index）</p>
<p>（概要）</p> <p>今日まで発展を遂げてきた情報技術が社会的基盤となり、人々の暮らしを支える情報システムのサービス形態は、変化・適用・深化を繰り返しながらこれからも発展し続けていくことが予想される。本学科では、情報技術、ロボット制御、生体システムを柱とする実践的教育を展開し、技術者倫理、コミュニケーション能力、エンジニアリングデザイン能力を身につけることで、社会の持続的発展に不可欠な情報システムの設計・開発・運用に携わる技術者の養成を目的とする。</p>

卒業の認定に関する方針（公表方法：
http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/diploma_policy/index）

（概要）

- A 地球的な視野と将来への展望を持ち多面的に物事を考える能力を身につけている。
1. 自然のなりたちと社会の仕組みについて幅広い教養を身につけている。
- B 技術者として社会や自然に対して負う責任と役割を理解している。
1. 技術開発の歴史を踏まえて、社会や自然に対する責任と役割、技術者倫理を理解している。
- C 数学と自然科学に関する知識とそれを応用する能力を身につけている。
1. 数理法則の基礎概念と一般的法則を理解し、論理的思考能力を身につけている。
 2. 自然科学に関する基礎知識と応用力を身につけている。
- D 情報システムに関する工学知識と技術を問題解決に応用する能力を身につけている。
1. 情報システム技術者として必要な情報技術に関する基本的な知識を修得し、問題解決に応用する技術を身につけている。
 2. ロボット工学、システム制御、組込みシステム、生体システムの知識を修得し、人々の暮らしを支える情報システムの基本的な仕組みを理解し、問題解決に応用する技術を身につけている。
- E 社会や自然の課題について科学知識と技術を用いて目標を設定し解決する能力を身につけている。
1. 社会や自然における課題を認識する能力を身につけている。
 2. 種々の学問と技術の総合応用能力を駆使し、課題を解決するための構想力と創造力を身につけている。
 3. 一つとは限らない解の中から、制約条件を考慮して最適な解を見出す能力を身につけている。
- F 論理的な記述能力、口頭発表能力、他人の意見を理解し意志疎通する能力および外国人異文化の相手と相互理解できる基礎能力を身につけている。
1. 論理的かつ明瞭な文章を記述し、読み手の知識を想定した分かりやすい資料を作成する能力を身につけている。
 2. 効果的な口頭発表と的確な討論を行うための基礎能力を身につけている。
 3. 他者との相互理解のための国際的なコミュニケーションの基礎能力を身につけている。
- G 自分のキャリア形成を考え自主的継続的に学習する能力を身につけている。
1. 社会が求めている知識や技術に関する情報を的確に収集・分析し、自分のキャリア形成に活用する能力を身につけている。
 2. 自発的かつ継続的に学習する必要性を理解している。
- H 現実の制約の中で創意工夫し、計画的に仕事を遂行する能力を身につけている。
1. 与えられた制約条件の下で期限までに目標を達成する能力を身につけている。
- I チームで仕事をする能力を身につけている。
1. グループワークにおける自身および他者の役割を理解し、的確に行動する能力を身につけている。
 2. 与えられた課題に対して、チームの構成員と協調して問題を解決する能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：
http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/curriculum_policy/index）

（概要）

人間とロボットが共存する暮らしを支える情報システムの設計・開発・運用に携わる技術者を育成するために、本学科では、情報技術、ロボット制御、生体システムの実践的な知識と技術を修得する。そのために、専門科目の理解に必要な数学・物理・専門科目の基本的素養を2年次までの必修科目で身につける。そして、3年次以降は学生が志向する専門分野やキャリア形成に必要な科目を選択して履修し、卒業研究を通してこれらの応用力を身につける。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/index）</p>
<p>（概要） 数学・理科・情報の素養を持った学生、特にグローバルな視点から ICT 機器、ロボット、人工知能いずれかの学習分野に興味を持った学生の入学を希望します。入学後の学習のために基礎となる科目は、数学、物理、プログラミングであり、特に数学と物理は専門科目の内容を理解するために不可欠となります。また、入学後においてはグループ演習を中心に行われる講義や実験科目が多く配置されているため、社会的マナーやコミュニケーションなどの基本的素養を、身につけておくことが望まれます。</p>

<p>学部等名 情報工学部システムマネジメント学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/index）</p>
<p>（概要） 高度に情報化、国際化が進む現代社会において、企業の生産管理技術と情報管理技術について、経営、生産、メディアの観点から基礎的な素養を身につける教育を行い、それらの知識に裏付けされた人間哲学に基づいてシステムのマネジメントを行える人材の養成を目的とする。</p>

<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/diploma_policy/index）</p>
<p>（概要）</p> <p>A 地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養</p> <p>1. 経営工学に関する諸問題に対して、高度情報化とグローバル化に対応できる総合的な分析能力、問題発見能力および解決能力を身につけている。</p> <p>B 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に対する理解</p> <p>1. 経営および情報に関する技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解している。</p> <p>2. 利己的に走るのではなく、社会の公器としての働きを学習し、社会全体の利益を追求する姿勢を修得している。</p> <p>C 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力</p> <p>1. 高度情報化社会で多量に取得できるデータをコンピュータを用いて処理できる数学および自然科学に関する知識を修得している。</p> <p>2. 社会現象の中で、統計的データから物事の因果関係を類推し、知識として理解し、社会活動に応用する能力を修得している。</p> <p>D 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力</p> <p>1. 統計学や最適化に関するさまざまなアルゴリズムを使って、複雑な経営システムに関する問題発見および分析を行える専門的知識を修得している。</p> <p>2. 情報技術を使って経営に関する意思決定問題を解決し、その根拠を他人に説明することができる能力を修得している。</p> <p>E 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力</p> <p>1. 社会の要求を解決するために情報技術および経営情報学に関する情報を積極的に入手し、既修得の知識・技能と統合して活用することで、自らが立てた課題にそれらを適用して、その課題を解決する能力を修得している。</p> <p>F 論理的な記述力、口頭発表能力、討議等のコミュニケーション能力</p> <p>1. 自分の意見を論理的に記述し、プレゼンテーションを行う能力を修得している。</p> <p>2. 英語による専門知識の習得およびそれに付随する最新の情報の獲得と基礎的なコミュニケーション能力を修得している。</p> <p>G 能動的、継続的に学習し、自主的に問題解決に取り組む能力</p> <p>1. 情報技術および経営手法について、能動的かつ継続的に学習し、それを自らが興味をもつ経営における意思決定問題に活用して解決する能力を修得している。</p>

<p>H 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力</p> <p>1. 取り組む仕事に対して、技術面での解決にのみ拘るのではなく、コスト、品質や時間等までを考慮して総合的に解決をはかることができるマネジメント能力を修得している。</p> <p>I チームワークを重視して、共同作業に従事する能力</p> <p>1. 他者と協調および共同して作業できる能力を身につけている。</p> <p>2. 他者に作業の方向性を示すことができ、目標の実現のために動員できる能力を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/curriculum_policy/index）</p>
<p>（概要）</p> <p>現代のマネジメントは、インターネットをはじめとしたネットワーク上などの、身の回りに存在する種々様々で膨大な情報を自由自在に扱い、企業などの経営戦略への確に活用することが求められる。本学科では、経営・マネジメント分野における課題発見、探求力、実行力の素養をもった技術者を育成するため、情報工学に基づく意思決定手法に関する学際的教育を行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/index）</p>
<p>（概要）</p> <p>システムマネジメント学科の「養成すべき人物像」にふさわしい能力、と以下の資質をもつ学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営工学と情報技術に強い興味と探求心を持ち、それらに関する専門知識と専門技術を修得する意欲が高い者。 ・未知の問題に対しても挑戦し、その成果を積極的に発表していく意欲をもつ者。 ・経営分野の諸問題に関心を持ち、情報学を基点とする多面的視点から創造・研究活動を行い、会得した知識を活用して地域社会に貢献したいと考える者。

<p>学部等名 社会環境学部社会環境学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/index）</p>
<p>（概要）</p> <p>環境に関わる諸問題に関して主として社会科学の立場からアプローチし、個人・企業・社会全体の仕組みを理解した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる実践型の人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/diploma_policy/index）</p>
<p>（概要）</p> <p>A 地球的視点から多面的に物事を考える能力を身につけている。</p> <p>B 環境調和型の社会実現に貢献することの必要性を理解している。</p> <p>C 社会科学に関する基礎力を養い、様々な課題に柔軟に対応できる能力を身につけている。</p> <p>D 社会科学分野の専門知識又はそれらを総合して自ら考える力を身につけている。</p> <p>E 従来型の発想では解決策が見出せぬような未知の問題に対し、広い視野に立ち柔軟な発想を行う力を身につけている。</p> <p>F 論理的な思考力とそれにもとづく文章作成力、口頭発表能力、討議など国際的にも通用するコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>G 自分自身のキャリア形成を考え、自主的継続的に学習する能力を身につけている。</p> <p>H 与えられた制約の下で計画的に課題に取り組み、まとめる能力を身につけている。</p> <p>I 組織の一員として機能しつつ、その中で自己の能力を最大限発揮できるような社会性を身につけている。</p>

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/curriculum_policy/index）</p>
<p>（概要） 本学科では、「環境問題」につき、主として社会科学の視点に立って理解し、その解決策を企画・立案できる総合的な能力を身に付け、企業、行政、NPO等で行動できる実践型人材を養成する。そのために、初年次から動機付け教育を行い、社会環境学に関する基礎的知識を早期に習得した上で、実践型人材養成に適したカリキュラムを履修し、問題解決能力の向上を図る。さらに、現代社会で需要の多い環境マネジメントシステム、実習やフィールドワーク等の体験を通じて、深い洞察に裏付けられた知識を獲得できる機会を提供するものである。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/index）</p>
<p>（概要） 本学科では、環境問題に関わるさまざまな現象に関心を持つだけでなく、地域社会やビジネスにおいて解決を必要とする課題を発見し、自ら解決できるような知識と技能を修得する意欲がある学生を求めています。具体的には、本学科での勉学に必要な基礎的・基本的な知識・技能を有し、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を修得した上で、本学科において、主体的に地域社会やビジネスに関する専門知識を修得したいと考えている人、そしてその学修の成果を地域社会やビジネスにおいて生かしたいと考えている人を求めています。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：『学校法人 福岡工業大学 組織図』 http://www.fit.ac.jp/daigaku/syokai/soshiki</p>
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
工学部	—	31人	15人	0人	12人	0人	58人
情報工学部	—	31人	17人	3人	6人	0人	57人
社会環境学部	—	16人	9人	0人	3人	0人	28人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		130人					130人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： 『教員一覧・研究概要(工学部)』 http://www.fit.ac.jp/gakubu/kougaku/kyoin_kougaku 『教員一覧・研究概要(情報工学部)』 http://www.fit.ac.jp/gakubu/joho_kougaku/kyoin_joho_kougaku 『教員一覧・研究概要(社会環境学部)』 http://www.fit.ac.jp/gakubu/syakai_kankyo/kyoin_syakai_kankyo 『福岡工業大学 研究者情報データベース』 http://www.fit.ac.jp/research/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
本学では、福岡工業大学の教育改善に関する諸取組（FD：Faculty Development）の企画・開発・実施および支援を行う組織を明確に位置付けるとともに、学長のリーダーシップによる運営を図ることによりFD活動をより進展させることを目的に「FD推進機構」を設置しています。FD推進機構では、本学におけるFDを「教育内容及び方法を改善し向上させるための組織的な諸取組」と定義し、FDに関する企画、開発、実施、関連情報の収集活動等を通して全学的にFD活動を推進。また、授業改善のための公開講義や報告会、各学部でのFD研修会等を開催し、教育改善に資する取組を進めるとともに、学内外の特色ある教育実践に関するセミナー等を大学全体で開催するなど、活動を活発化しています。なお、現在はAL（アクティブ・ラーニング）型授業の推進等に取り組んでいます。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	380人	466人	122.6%	1520人	1766人	116.1%	0人	1人
情報工学部	375人	405人	108.0%	1500人	1729人	115.2%	0人	20人
社会環境学部	160人	179人	111.9%	700人	730人	104.3%	60人	8人
合計	915人	1050人	114.8%	3720人	4225人	113.6%	60人	29人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数	
学部等名	

	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	344人 (100%)	40人 (11.6%)	294人 (85.5%)	10人 (2.9%)
情報工学部	395人 (100%)	35人 (8.9%)	347人 (87.8%)	13人 (3.3%)
社会環境学部	168人 (100%)	2人 (1.2%)	153人 (91.1%)	13人 (7.7%)
合計	907人 (100%)	77人 (8.5%)	794人 (87.5%)	36人 (4.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
【工学部】 福岡工業大学大学院、福岡市役所、山崎製パン株式会社、積水ハウス株式会社、マツダ株式会社、三尾電機ビルテクノサービス株式会社、富士電機株式会社、株式会社 Hexel-waorks、株式会社協和エクシオ、株式会社大気社、株式会社三井ハイテック				
【情報工学部】 福岡工業大学大学院、NEC ネットエスアイ株式会社、GMO インターネット株式会社、株式会社ミライト、西日本旅客鉄道株式会社、株式会社ゼンリン、CTC テクノロジー株式会社、富士ソフト株式会社、三菱電機インフォメーションネットワーク株式会社、株式会社アルファシステムズ、前田道路株式会社、SCSK 株式会社、西部電気工業株式会社				
【社会環境学部】 福岡工業大学大学院、日本年金機構、航空自衛隊、株式会社福岡銀行、株式会社鹿児島銀行、株式会社九電工、株式会社フジタ、大和ハウス工業株式会社、日本郵政グループ、サクサ株式会社、日本通運株式会社、NTT ビジネスソリューションズ株式会社、福岡トヨタ自動車株式会社、前田道路株式会社				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
工学部	443人 (100%)	304人 (68.6%)	76人 (17.2%)	57人 (12.9%)	人 (%)
情報工学部	436人 (100%)	365人 (83.7%)	41人 (9.4%)	38人 (8.7%)	人 (%)
社会環境学部	194人 (100%)	163人 (84.0%)	13人 (6.7%)	25人 (12.9%)	人 (%)
合計	1073人 (100%)	832人 (77.5%)	130人 (12.1%)	120人 (11.1%)	人 (%)
<p>(備考)</p> <p>工学部・社会環境学部は1年生、情報工学部は2年生から進級要件を設定し、厳格かつ適正な修学管理を行っている。</p> <p>なお、この進級要件に関しては、ホームページで公表している。</p>					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業計画（シラバス）は、毎年2月に科目担当教員が『シラバス作成の手引き』及び『成績評価ガイドライン』に従い、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーは基より、授業形態の表記、教職課程、実務経験、各授業のテーマ、授業外学習内容、ICTの活用、オフィスアワー等を考慮しながら、シラバス管理システムにて作成する。その後、各学科教員および教務課職員による第三者チェックにより、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとの整合性や達成目標と成績評価方法等の適合性について確認する。この後、科目担当教員、教務課職員による修正の後、最終シラバスチェックを行い、4月1日にシラバスを公開する。なお、各シラバスには当該科目における前年度の授業アンケート結果がリンクされており、受講者の評価やコメントを参照することができる。</p> <p>この他、シラバスの記載内容は、学生が理解できるように最大限配慮し、授業科目の目標や授業内容、参考図書、履修上のアドバイス、成績評価方法、成績評価基準等の記載内容等について、学生便覧に『シラバスの見方』を例示して説明している。また、各学科において習得する知識・能力（ディプロマ・ポリシー）と科目の関与度についても一覧表で示している。</p> <p>●シラバスに記載する科目のディプロマ・ポリシーと達成目標（例）</p>

修得する知識・能力 (DP)		関与度	達成目標
A	地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養		
B	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び社会に対して負っている責任に対する理解		
C	数学及び自然科学（人文社会科学）に関する知識とそれらを活用する能力		
D	当該分野において必要とされる専門知識とそれらを活用する能力	◎	電子回路を理解するために必要なバイアスと等価回路の考え方と具体的な回路について説明できる。
E	種々の科学技術、情報及び知識を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力		
F	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力		
G	自主的、継続的に学習する能力		
H	与えられた制約の中で計画的に仕事を進め、まとめる能力	○	必要な回路の目的を理解し、適切に素子及び回路を選択し設計を行うことができる。
I	チームで仕事をするための能力		

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>学生が修得する資質・能力について、A～I を定義しており、この方針に基づき各学科におけるディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を設定し卒業認定および学位授与を行っている。工学部学生は 132 単位、情報工学部、並びに社会環境学部学生は 124 単位を取得すれば、ディプロマ・ポリシーに合う卒業に必要な資質・能力を修得したと教授会にて判定され、学長が学位を授与する。</p> <p>A. 地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養 B. 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び社会に対して負っている責任に対する理解 C. 数学及び自然科学（人文社会科学）に関する知識とそれらを活用する能力 D. 当該分野において必要とされる専門知識とそれらを活用する能力 E. 種々の科学技術、情報及び知識を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力 F. 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力 G. 自主的、継続的に学習する能力 H. 与えられた制約の中で計画的に仕事を進め、まとめる能力 I. チームで仕事をするための能力</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	電子情報工学科	132 単位	◎ 無	49 単位
	生命環境化学科	132 単位	◎ 無	49 単位
	知能機械工学科	132 単位	◎ 無	49 単位
	電気工学科	132 単位	◎ 無	49 単位
情報工学部	情報工学科	124 単位	◎ 無	49 単位
	情報通信工学科	124 単位	◎ 無	49 単位
	情報システム工学科	124 単位	◎ 無	49 単位
	システムマネジメント学科	124 単位	◎ 無	49 単位
社会環境学部	社会環境学科	124 単位	◎ 無	44 単位
GPA の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 : http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rishu/seiseki		

学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：『教育・研究活動報告書』 http://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/kyouikukenkkyu 『FD Annual Report』 http://www.fit.ac.jp/kyoiku/kyoikushien/fd/kanko 『履修ガイド（修学履修登録）』 http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rishu/toroku
----------------------------	---

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： 『Campus Facility Report』 https://www.fit.ac.jp/shisetsu/campus/h28_renewal 『学内マップ』 https://www.fit.ac.jp/shisetsu/campus/map/ 『施設・設備データ』 https://www.fit.ac.jp/shisetsu/campus/map/shisetsu_data 『教育・研究活動報告書』 http://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/kyouikukenkkyu 『福岡工業大学・福岡工業大学短期大学部パンフレット』 http://www.fit.ac.jp/daigaku/kouhou/index

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
工学部	電子情報工学科	895,000 円	200,000 円	451,300 円	施設設備整備費 実験実習費 図書費 学生厚生費
	生命環境化学科				
	知能機械工学科				
	電気工学科				
情報工学部	情報工学科	895,000 円	200,000 円	451,300 円	
	情報通信工学科				
	情報システム工学科				
	システムマネジメント学科				
社会環境学部	社会環境学科	705,000 円	200,000 円	261,300 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 1. 成績不振の学生の状況把握と指導 本学では、学生情報管理システムを導入しており、教職員が学生の時間割、成績、授業出欠状況を逐次把握している。このシステムを活用し、各学科クラス担任、ゼミナール、卒業研究の指導教員および事務局において多欠席や単位不足の学生にタイムリーな指導を行っている。なお、学生の出席状況や成績情報は、保護者もWEBにより閲覧可能となっているほか、教育後援会主催の各地域別教育懇談会に各学科教員及び事務局職員が赴き、保護者と個別の相談会も実施している。 2. 学生の能力に応じた補習教育 本学では、新1年生の中で基礎学力やコミュニケーション能力に問題を抱える学生を対象に支援する組織として、フレッシュマンスクールを設置し、数学とレポート・スキルの2
--

講座を開講している。また、主に1年生を対象として専門基礎科目や大学での学びについて先輩への修学相談を行うことができる「FIT-inサポート」を運営している。さらに、情報工学部では正課外の学修支援として、学科毎に学習相談コーナーを設置し、専門科目の重点科目を対象に、学科教員や学生チューターによる補習授業を行っており、授業の振り返りや課題の解説をはじめ小テストの実施等、授業の補完を行っている。

3. 経済的支援の整備

学生が安心して修学を継続できるよう、本学では日本学生支援機構奨学金をはじめ、本学の特別奨学制度により学費の半額を免除する支援を行っている。

4. 障がいのある学生に対する修学支援

学生相談室には、常勤カウンセラー3名を配置している。また、保健室は常時2名が対応できる体制を採っている。もとより、障がいのある学生を支援するため、「福岡工業大学障がい学生等支援に関する基本方針」を定め、それに基づき全学的に対応している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

I. 就職支援

1. 学生対象

(1) 支援体制：学科担当制、学部統括責任者制

(2) 正課授業：「就業力育成プログラム」

(3) 就職支援授業プログラム

「就職課ガイダンス」（新型コロナの影響で中止）「学科別ガイダンス」「インターンシップガイダンス」（新型コロナの影響で中止）「学内合同説明会事前ガイダンス」「業界・企業・職種研究セミナー」「就活必勝講座」「公務員研究会」（新型コロナの影響で中止）

「未内定者ガイダンス」「SPI 講座（WEB）」「福工大 SPI（WEB）受検会」「適職診断

（WEB）」「自己分析・自己PR 講座」「履歴書対策講座」「全員（個人）面談」「模擬面接」

「集団面接講座」「グループディスカッション講座」「就活マナー・求人票見方講座」

(4) インターンシップ：IS ガイダンス、IS フェア（新型コロナの影響で中止）

(5) トップアップセミナー

2. 教職員対象

(1) 教員「就職指導セミナー」

(2) 資格取得、研修実施：CDA 資格取得、就職課員全員対象セミナー

(3) 実就職率向上キャンペーン

3. 保護者対象

(1) 3年生保護者対象ガイダンス（新型コロナの影響で中止、資料送付）

(2) 4年生保護者面談

II. 就職斡旋

1. 「学内合同企業説明会」の開催（WEB型、対面型）

2. 「学内単独説明会」の開催

3. 「学内業界研究フェア」の開催

4. 「業界研究セミナー」の開催

5. 「学内OB・OG訪問会」の開催

6. 「FIT 推奨企業」検討

III. 就職開拓

1. 求人策拡大：東京、大阪、福岡担当制

2. 企業とのネットワーク構築：「企業交流会」の開催（新型コロナの影響で中止）

その他

- ・交通費支援制度
- ・求人情報検索システム
- ・内定報告書検索システム
- ・福工大 OB アドバイザー制度
- ・セカンドキャンパス：東京、大阪、広島、福岡

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

1. 定期健康診断
在学生を対象に実施
再検査、治療が必要な学生については、本人または保証人に連絡
2. 学生相談室
臨床心理士が相談に応じるほか、定期的に精神科による「心の健康相談」を実施
教職員を対象に、事例研究（勉強会）を実施
学生に居場所づくりと同世代の関係構築の促進を図る「ランチグループ」の開催や気軽に利用できるフリースペースを設けている。
3. 保健室
学内での発病やけがの場合に応急措置を講じる
身長・体重・体脂肪・血圧などの測定ができる。
4. 新入生健康診断および web 健康調査のフォロー
新入生健康診断時の問診票および web 健康調査の結果により、案件に応じて学生相談室や保健室にて健康相談を行っている。
5. キャンパス内全面禁煙
キャンパスでの受動喫煙防止、学生の喫煙習慣防止のために、最大限配慮した環境づくりを進めている。
6. 課外活動
課外活動を通じて、心身の健康と学生生活の充実を図るために、新規サークル立ち上げ支援や優秀な成績を収めた団体や個人に対する表彰制度、および金銭面での不活性を極力減らすために、経費の補助などを実施

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：『教育・研究活動報告書（IR レポート）』
<http://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/kyouikukenkkyu>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	福岡工業大学
設置者名	学校法人 福岡工業大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		436人	424人	455人
内 訳	第Ⅰ区分	272人	253人	
	第Ⅱ区分	106人	118人	
	第Ⅲ区分	58人	53人	
家計急変による支援対象者（年間）				12人
合計（年間）				467人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	17人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	17人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	4人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	74人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	74人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。